

1 現状/令和6年度の取組

1 健康づくりと疾病予防

生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化

(1) 健康づくり推進部会と連携した啓発活動の継続

・健康づくり推進部会の開催（第1回：7/24 11人、第2回：1/29 14人）

①部会で事業所での健康経営の取り組みを推進するための啓発資料を作成し活用

内容：管内事業所の健康経営取組事例と適正飲酒について

活用：全国労働安全週間・衛生週間説明会、事業所訪問、職場の健康づくり

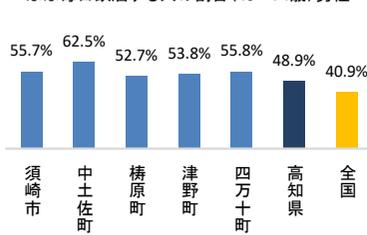
応援研修会、出前健康教室 他

②地域のケーブルテレビを活用した啓発放映（11月）

内容：管内は全国、県平均と比較し、男性の飲酒する

割合が高いため、適正飲酒をテーマに啓発

ほぼ毎日飲酒する人の割合(40~74歳)男性



出典：「R5年KDBシステム」



(2) 事業所での主体的な健康づくり（健康経営）の取組促進

①健康管理担当者サポート事業の継続

・事業所訪問（20社）、出前健康教室（3社）、
 関係団体との連携による総会等での普及啓発（6回）

・職場の健康づくり応援研修会（11/5 40人）

内容：「正しいお酒とのつきあい方」「高幡地域の健康課題と事業所の健康づくりの取組事例」

②高知家健康パスポートアプリを活用した健康づくりの取組支援

・アカウント取得事業所（6社）

・アプリイベント（職場対抗ウォーキング）管内参加事業所（27社）

2 疾病の早期発見・早期治療

血管病重症化予防対策の推進

(1) 特定健診受診率向上対策として、個別健診やみなし健診の受診者増加へ向けた具体的な取組方法について共有

(2) 糖尿病性腎症重症化予防対策

①糖尿病対策検討会の開催

第1回：発症予防と重症化予防に向け、課題を整理し、当年度の取組について共有（7/9 9人）

第2回：当所の取組と各委員の取組内容の共有、次年度に向けた連携について共有（1/15 10人）

②糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実施拡大を促進するため、医療機関訪問や市町（保険者）への支援

・医療機関訪問（3医療機関） ・市町ヒアリング（5/29、7/16、7/29）

③糖尿病アドバイザー派遣事業を広域開催し、市町職員等のスキルアップを図った

実施日	内容	講師	参加人数
R6.8.9	勉強会「糖尿病性腎症重症化予防豆知識」 重症化予防プログラム対象者選別ミーティング	看護師	11
R6.9.26	勉強会「糖尿病とお薬の話」	薬剤師	7
R6.10.29	勉強会「糖尿病と糖尿病腎症のキホンと予防」 保健師等への実践場面での助言	管理栄養士	11

④医療機関と市町を対象にした研修会の開催（12/19 20名）

内容：「糖尿病治療支援-最近の動向」「くぼかわ病院と四万十町の連携について」

2 令和6年度の取組成果

1 健康づくりと疾病予防

生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化

(1) 健康づくり推進部会で活動を共有するとともに、事業所の健康経営の取組を推進するために啓発資料を作成し、研修会等において活用。ケーブルテレビ放映も実施できた

(2) 部会委員と連携し、職域関係者向けの会議、研修会等で健康づくりの取組好事例を共有。健康管理担当者サポート事業で市町と連携し、事業所での健診後の保健指導や受診勧奨の重要性について周知できた

2 疾病の早期発見・早期治療

血管病重症化予防対策の推進

(1) 糖尿病対策検討会の開催により、発症予防と重症化予防に向けた課題を整理し、連携した取組の必要性が共有できた

(2) 糖尿病アドバイザー派遣事業の広域実施により、各市町の困りごと等、他市町の状況を共有することで具体的な取組内容について意見交換することができ、担当者の理解が深まった

(3) 糖尿病重症化予防に取り組んでいくうえで、医療機関と市町との連携の必要性の理解が進んだ

3 令和7年度の取組(R7.8末までの実績)

1 健康づくりと疾病予防

生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化

(1) 健康づくり推進部会と連携した啓発活動の実施

健康づくり推進部会 第1回（7/31 13人）、第2回（1月予定）

①部会で啓発資料を作成し、各組織での取組を推進；夏場の水分摂取の啓発資料を作成し活用

②地域のケーブルテレビを活用した啓発；11月頃に放映予定（内容を部会で検討中）

(2) 事業所での主体的な健康づくり（健康経営）の取組促進

①健康管理担当者サポート事業の継続：12社（市町担当者同行、下半期に8社予定）、
 出前講座：1社（6/25）、商工会等との連携による総会等での普及啓発：5回

②事業所版高知家健康パスポートアプリのアカウント取得促進：アカウント取得事業所9社

2 疾病の早期発見・早期治療

血管病重症化予防対策の推進

(1) 糖尿病対策検討会の開催：第1回（7/16 11人）、第2回（1月予定）

医療機関や市町職員を対象とした研修会：10~12月に実施予定

(2) 糖尿病アドバイザー派遣事業の広域実施の継続：第1回（8/26 13人）、第2回（10/31予定）、第3回（11/12予定）

(3) 特定健診の受診率向上や糖尿病性腎症重症化予防プログラム実施医療機関の拡充に向け、市町と連携し医療機関を個別訪問：2医療機関（7/1、7/25）、下半期に3医療機関予定

1 現 状/令和6年度の取組

1 在宅療養体制の充実に向けた取組

- (1) 高幡ブロック地域包括支援センター連絡協議会と協働の研修会を開催
 - ・「人生会議」をテーマに多職種が連携した研修会（1回：128人参加）
- (2) 高知家@ラインの活用連携体制の強化
 - ・新たな加入を促進するため、津野町地域包括支援センター及び高知家@ライン事務局と連携し、関係事業所に対して説明会を実施（2回）
 - ・須崎市における活用促進のため、コアメンバー会（1回）及びワーキング（2回）の開催

高知家@ライン
R7.8月末時点

加入事業所 (うち新規加入)	45件 (1ヶ所)
-------------------	--------------

※未稼働事業所を含む

認知症カフェ設置状況

須崎市	3ヶ所
中土佐町	1ヶ所
梶原町	1ヶ所
津野町	なし
四万十町	5ヶ所

R7.3月末時点（県ホームページ）

3 あったかふれあいセンターの機能強化

- (1) 体験型研修の「あったか留学」の実施
 - ・他のあったかふれあいセンターの活動を体験し、自所属の機能強化に活かすため、土佐市のあったかふれあいセンターへ4市町（須崎市、中土佐町、津野町、四万十町の9ヶ所）が参加（2回：14人）
- (2) あったかふれあいセンターと市町を対象に管内担当会の開催
 - ・地域福祉の推進のため、あったか留学の報告や利用者データの活用、取組状況の意見交換（1回）

あったか留学 参加状況

あったかふれあいセンター	R4	R5	R6	
須崎市	まちなかサロン	○	○	○
	さんぼ		○	○
	あわ		○	
中土佐町	かみぶん		○	○
	まんまる			○
	寄り家			○
津野町	ほのほの大野見			○
	風のさと		○	○
	星のさと		○	○
四万十町	くぼかわ	○	○	○
	やまびこ			
	十和	○		
合計参加者数		3	12	14

あったかふれあいセンター担当会 参加者数
 R4：あったか10名（12拠点）、市町6名（3市町）
 R5：あったか13名（11拠点）、市町5名（3市町）
 R6：あったか15名（7拠点）、市町3名（2市町）

2 令和6年度の取組成果

1 在宅療養体制の充実に向けた取組

- (1) 高幡ブロック地域包括支援センター連絡協議会と協働の研修会を開催
 - ・管内5市町が多職種との理解を深め、情報共有することで、関係者間の連携が深まった
- (2) 高知家@ラインの活用連携体制の強化
 - ・津野町地域包括支援センター及び関係事業所が活用効果の理解及び導入に向けての準備につながった。

2 総合的な認知症施策の推進

- ・中土佐町社会福祉協議会の職員が、認知症の症状や早期発見・早期つなぎ及び適切なケアの理解を深めることで利用者への対応改善につながった
- ・市町村と役割分担した住民向け講座を開催することにより、四万十町の高齢者向け「地域共生社会」の啓発・推進につながった

3 あったかふれあいセンターの機能強化

- ・「あったか留学」による運営内容や職員間の情報共有の仕方などの学びを自所属の活動に反映できた
- ・担当者会では、利用者への対応の仕方を学び、運営協議会の運営についてあったかふれあいセンター担当者間で現状や課題が共有できた

3 令和7年度の取組(R7.8末までの実績)

1 在宅療養体制の充実に向けた取組

- (1) 高幡ブロック地域包括支援センター連絡協議会と協働の多職種合同研修会を開催（11月13日予定）
 - ・入退院時の情報連携について、多職種連携の点検協議の研修会及び3市町（須崎市・津野町・中土佐町点検協議の開催（5/23 36人参加）
- (2) 高知家@ラインを活用した連携及び利用者の拡大事務局会 適宜（ワーキング開催向けに5回実施済）

2 総合的な認知症施策の推進

- ・高知県認知症疾患医療センター（一陽病院）と連携し、中土佐町内事業所職員対象者の認知症研修会の開催（11月20日予定）
- ・一般住民の認知症の理解促進のための講座の継続開催
- ・高幡ブロック地域包括支援センター連絡協議会と連携した認知症カフェ支援者交流会の開催（12月予定）

3 あったかふれあいセンターの機能強化

- ・「あったか留学」の実施（3回予定）及び市町と地域課題の共有に向けた担当者会の継続開催

1 現状/令和6年度の取組

【管内の出生状況】

※1 出生：1～12月

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	管内	県
人口(人) (R6.10.1推計)	18,828	5,272	2,984	4,869	14,114	46,067	655,698
出生数(人) (R6)※1	57	14	8	20	46	145	3,108

【こども家庭センター等設置状況(R7.4時点)】

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
こども家庭センター	R8 予定	R7 設置	未定	R7以降 予定	R6 設置
子育て世代包括支援センター (母子保健)	H29 設置	R4 設置	H29 設置	R2 設置	R2 設置
子ども家庭総合支援拠点 (児童福祉)	R4 設置	R4 設置	—	R4 設置	R4 設置

【幼児健診の状況(R6年度)】

	須崎市		中土佐町		梶原町		津野町		四万十町	
	1.6歳児	3歳児								
回数	6回	6回	4回	3回	3回	6回	6回	6回	6回	6回
受診者数(人)	75	86	16	18	5	17	25	33	54	84
要経過観察(人)	5	30	5	1	3	2	5	4	1	7
要精密(人)	4	5	0	2	0	2	0	3	11	19
要治療(人)	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3

1 妊娠期から子育て期の支援体制強化

- 妊娠期からのポピュレーションアプローチによる虐待リスク予防
 - 管内市町を訪問し、各市町の令和6年度の重点取組等を確認(5月)
 - 母子保健担当者連絡会：第1回(7/16 11人) 第2回(2/7 13人)
 - 母子保健担当者勉強会：「幼児健康診査における問診のとり方/行動の見方」(5/22 20人)、「産後ケアの実際」(7/16 14人)、「保健師が行う新生児期・乳児期の母子への支援」(9/30 12人)
- 各市町内での関係者が協働したこども家庭センターへの円滑な移行
 - 設置に向けた市町の協議への参画：須崎市(5/10) 中土佐町(9/19)
 - 管内母子保健担当者連絡会(再掲)での情報共有

2 発達の気になる子どもの支援体制整備

- 障害児のサービス体制整備に向けた協議
 - 発達の気になる子どもの支援体制検討会：支援体制の検証と課題解決に向けた協議(11/12 25人)
 - 市町障害者自立支援協議会子ども部会への参画：須崎市(4回)、中土佐町(2回)、四万十町(1回)
- 幼児健診後から就学までの切れ目のない支援体制づくり
 - 支援者の人材育成と教育相談員派遣事業の活用を推進：こどもの発達相談(10回 27人) 発達相談フォローアップ事業・教育相談員派遣事業(1回) 高知県発達障害早期支援エキスパート事業(2町で実施)

【管内産科医療機関】

- 1施設
(分娩取り扱いなし
週1回妊婦健診のみ)



【管内の障害児福祉サービス】 ・全て須崎市内

運営主体	事業所名	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問
(医療法人)五月会	なちゆら	○ (R4~)	○ (R3~)	○
(株)三業	COMPASS 発達支援センター 須崎	○	○	
(社団法人)チャイルドライフ	通所支援 ベルテール須崎園		○	

【当所における発達相談会】

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
回数	10回	10回	10回	10回	11回	10回
利用人数	32	26	32	25	32	27

2 令和6年度の取組成果

1 妊娠期から子育て期までの支援体制強化

- 新任期保健師のスキル向上、経験がある保健師は手技や視点の確認機会となった。
 - 妊産婦・乳幼児の健康保持・増進に役立つ保健活動について学べた。
 - 管内市町が取組状況を共有し、自市町での取組に活用した。
- こども家庭センター設置に向けて、中土佐町(R7.4設置)須崎市(R8設置予定)で具体的な協議が進んだ。
 - こども家庭センター設置の課題や必要な取組を共有できた。

2 発達の気になる子どもの支援体制整備

- 発達の気になる子どもの支援体制検討会で、関係機関の取組や現状の共有を行い、Q-SACCSを活用した地域診断により、市町ごとに事業や取組を整理して可視化した。
 - 幼児健診要フォロー児や保育所で発達の気になる子どもの見立てや支援の検討の場として事業が活用されている。

3 令和7年度の取組(R7.8末までの実績)

1 妊娠期から子育て期の支援体制強化

- 妊娠期からのポピュレーションアプローチによる相談支援体制強化
 - 市町ヒアリング(5月)
 - 管内母子保健担当者連絡会 第1回(7/7 14人) 第2回(2月予定)
 - 母子保健担当者勉強会 第1回：幼児健康診査(7/7 17人) 第2回：災害時の母子支援(10/6予定)
- 各市町内での関係者が協働したこども家庭センター運営強化とこども家庭センター設置促進
 - 設置に向けた市町の協議への参画 須崎市(5/14)
 - 管内母子保健担当者連絡会(再掲)での情報共有 第1回(7/7 14人)

2 発達の気になる子どもの支援体制整備

- 関係機関連携による障害児のサービス体制強化
 - 発達特性のある子どもと家族への地域支援体制づくりに関する研修会(9/5予定)
 - 発達が気になる子どもの支援体制検討会：支援体制の充実に向けた協議(11/7予定)
- 幼児健診後から就学までの切れ目のない支援体制づくり
 - 発達相談会の積極的活用と教育相談員派遣事業との協働を推進：こどもの発達相談(11回予定)
 - 支援体制の充実のため、エキスパート事業等の活用を推進(中土佐町で実施)

1 現状/令和6年度の取組

【管内市町の状況】 (R7.3月末時点)

項目		須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
計画/マニュアル 策定状況	災害医療救護計画 改定	R7.3	R元.8	R2.3	H28.11	H28.3
	南海トラフ地震時 保健活動マニュアル改訂	R7.3	R5.2	R7.3	R7.3	R7.3
	遺体対応マニュアル	R6.3	H28.3	R2.3	H29.3	R6.3
災害時要 配慮者対策 (R7.3.31時点)	避難行動要支援者数 (A)	599	171	33	152	1,667
	計画作成同意者数 (B) (同意取得率B/A)	219 (36.6%)	126 (73.7%)	32 (97.0%)	48 (31.6%)	1,053 (63.2%)
	個別計画作成数(C) (同意者の作成率C/B)	219 (100%)	124 (98.4%)	32 (100%)	48 (100%)	1,041 (98.9%)
	人工透析通院患者数	60	18	3	15	42
福祉避難所	指定(協定)施設数 (施設マニュアル作成数)	8 (4)	7 (0)	4 (0)	4 (2)	11 (11)

【医療機関等の津波浸水予測 (L2想定)】

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
救護病院 ※市町指定 ●浸水予測	●高陵病院 土佐市民病院	●なかとさ病院 くぼかわ病院	梶原病院	梶原病院 ●高陵病院	くぼかわ病院 大西病院
透析医療機関 ●浸水予測	●島津クリニック ●須崎医療 クリニック	●なかとさ病院			くぼかわ病院
薬局数 (浸水予測)	13(13)	2(2)	2(0)	2(0)	7(0)

1 保健医療調整高幡支部体制の強化

- ・災害時保健医療調整高幡支部活動の訓練・研修(5回、38人/39人)
- ・須崎災害対策支部、保健医療調整高幡支部、市町災害対策本部、災害拠点病院、救護病院との合同訓練を実施(10月:参加機関13)
- ・医師を対象とした災害医療研修(10月:参加者37人、うち医師6人)
- ・災害拠点病院と救護病院を訪問し医療従事者搬送計画について協議(8月、5病院)
- ・災害医療対策高幡地域会議の開催(2月、委員16人)
- ・保健医療調整高幡支部初動体制を見直すため所内ワーキングを開催(6回)

2 市町ごとの災害時活動体制づくり

- ・未策定2町の医療救護行動計画(L2想定)の策定支援
- ・四万十町の医療救護体制を検討するための意見交換会(3回)
- ・南海トラフ地震時保健活動マニュアルの見直し支援
- ・高幡地域における災害時の薬剤師活動を考える勉強会(災害薬事コーディネーター5名)

3 災害時要配慮者対策の推進

- (1) 人工透析患者の災害時支援体制の推進
<中央西・高幡ブロック>
- ・人工透析患者災害時支援体制検討会(2回)
 - ・災害透析情報伝達訓練(1回)
 - ・透析医療機関臨床工学技士等連絡会(1回)
- <管内>
- ・透析医療機関と市町との意見交換会(1回)
 - ・市町(保健、福祉、防災担当)合同ヒアリング
- (2) 福祉避難所運営体制の実効性に向けた支援
- ・須崎市、中土佐町、四万十町には総合防災対策推進須崎地域本部と協働の推進チーム会を開催
 - ・管内担当者会で避難所運営ゲーム(HUG)を実施

2 令和6年度の実績

1 保健医療調整高幡支部体制の強化

- ・4回の職員研修を経て合同訓練を実施したことで、職員の理解が深まり、自主的な活動に繋がった。
- ・医師等医療従事者が医療救護所の役割を理解し、市町職員と協働で医療救護所の開設・運営の図上訓練ができた。
- ・医療従事者搬送計画の活用を希望する病院を把握できた。
- ・職員の安否確認や参集の連絡網、ルールを決定し周知した。
- ・災害医療調整高幡支部開設の代替場所を1カ所確保できた。

2 市町ごとの災害時活動体制づくり

- ・津野町と四万十町の医療救護行動計画(L2想定)が完成した。
- ・四万十町内の関係者間で医療救護体制のあり方を継続して協議する必要性を確認できた。
- ・四万十町の南海トラフ地震時保健活動マニュアル改定ができた。

3 災害時要配慮者対策の推進

- ・中央西・高幡ブロックにおいて、通信手段を拡大して情報伝達訓練を実施したことにより、参加市町村が大幅に増加。
- ・個別避難計画の策定の進捗状況を関係課で共有できた。
- ・避難所運営ゲーム(HUG)を通じて、市町と福祉避難所である施設が災害対応時のイメージを共有できた。

3 令和7年度の実績

1 保健医療調整高幡支部体制の強化

- (1) 実践的な医療救護訓練の継続的な実施(合同訓練:10/8、災害医療研修:調整中)
- (2) 災害医療対策高幡地域会議の開催(2月予定)
- (3) 保健医療調整高幡支部初動体制の強化(職員研修:6回/10回、所内ワーキング:4回)

2 市町ごとの災害時活動体制づくりの支援

- (1) 管外病院を救護病院とする市町の情報伝達ルールを関係者間で検討(8/28)
- (2) 「南海トラフ地震時保健活動マニュアル」の見直し支援
- (3) 南海トラフ地震時公衆衛生活動GIT研修会の開催支援(須崎市:6/10)(梶原町予定)
- (4) 医薬品・医療資機材の確保策の勉強会の継続開催(2~3月予定)
- (5) 高幡地域遺体対応の検討に向けて各機関を訪問し、現状や取組を把握する予定(10月~)

3 災害時要配慮者対策の推進

- (1) 人工透析患者の災害時支援体制の推進
 - ・連携強化のための検討会や連絡会、市町との意見交換会の開催:透析医療機関との意見交換(5回)、市町職員対象の勉強会(7/11)、支援体制検討会(8/26)
 - ・中央西・高幡ブロック災害透析情報伝達訓練について通信手段を拡充して実施(11月予定)
- (2) 福祉避難所運営体制の実効性に向けた支援
 - ・保健福祉担当部署と防災担当部署及び施設との連携に向けた訓練や協議の場の設定:要配慮者対策担当者会開催(9/30予定)、市町支援(訓練へ参加予定)

